

令和 5 年度 調布市立国領小学校 学校経営計画 （学校長 内海 美穂）

学校の教育目標	
◎よく考える子 仲良くする子 元気な子	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像, 教員像, 児童・生徒像	
「認め合い、高めあい、笑顔あふれる学校」 新学習指導要領が目指す主体的で対話的な学びの中で、認め合いの土壌を育み、さらに学ぼうとする意欲を高める。自他を尊重し、互いを認め合う関係から、思いやりの心を育てる。保護者・地域も教育活動に協力・参画して学び育ち合う学校づくりを推進し、「認め合い、高め合い、笑顔あふれる国領小学校」を目指す。	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	・明るく素直な児童が多く、学習や行事に意欲的に取り組む。しかし、学力・体力には二極化傾向があり、より一層授業改善を図る必要がある。 ・学習規律・基本的生活習慣の定着を図るとともに、個別に支援を要する児童や不登校傾向の児童について、関係諸機関と連携をとりながら、特に改善を図っていく。
中期的な経営目標	
① 思いやりの心や規範意識をもち、自他を尊重する児童を育成する。 ② 基礎基本の定着を図り、主体的・対話的で深い学びを創り出す児童を育成する。 ③ 健康維持・体力増進のため自ら考え、判断し、実践する児童を育成する。 ④ 安全・安心な学校、地域と共にある学校を推進する。 ⑤ 読書活動を通して、児童の「豊かな心・感性」を育み、「確かな学力」の基礎を醸成する。 ⑥ 特別支援教育コーディネーターを中心に、組織的に個に応じた指導を行い、児童の自尊感情や自己肯定感を高める。	
人・組	・主幹教諭・主任教諭を中心に、組織的に教員の授業力・資質向上を図る。 ・それぞれのキャリアプランを明確にし、早期から学校マネジメント能力の視点を育成していく。

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
① 豊かな心(徳)	② 確かな学力(知)	③ 健やかな体(体)
(1) 取組目標（具体的方策） ① 児童の自尊感情や自己肯定感を高める教育の充実を図る。合言葉は「は・あ・と」とし全校で取り組む。（話を聞く、あいさつをする、友達となかよくする） ② 人間関係作りを大切にした教育活動のもと、いじめをしない、させない集団作りを行うと共に、差別や偏見を持たない人権尊重の意識を育てる	(1) 取組目標（具体的方策） ① 「自ら表現する力」や「学びに向かう力」を身に付けたい力とし、ICT を活用した学びの実現を図る。今年度の校内研究であるICT を活用した研究授業を年間4回実施する。 ② 主体的・対話的で深い学びを作り出す授業の創造を目指すとともに、各教科において、言語活動を充実させ、自分の考えを表現する力を育成する。	(1) 取組目標（具体的方策） ① 児童の健康維持・体力増進への意識を高め、基本的習慣の定着を図る。運動の楽しさを実感する体力向上に向けた取り組みを行う。 ② カリキュラムマネジメントを活用し、国際理解教育や日本の伝統文化理解教育等、オリンピック・パラリンピック教育のレガシーを引き継いでいく。
(2) 成果目標（数値目標） ① 自尊感情測定尺度を用いた調査において、個々の児童の課題を捉えるとともに、東京都の平均を超えることを目指す。 ② 学校関係者評価アンケート・児童アンケートにおいて、安全・安心に関する肯定的評価 90%を目指す。	(2) 成果目標（数値目標） ① 学校関係者評価アンケート・児童アンケートにおいて、学習内容の理解に関する肯定的評価 90%を目指す。	(2) 成果目標（数値目標） ① 学校関係者評価アンケート・児童アンケートにおいて、健康・体力増進に関する肯定的評価 90%を目指す。
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
④	⑤	⑥
(1) 取組目標（具体的方策） ① 新型コロナウイルス感染予防対策やアレルギー対応を踏まえた安全・安心な教育環境を整備する。地域人材や地域の自然・施設等の活用を図った学習活動を充実させ、地域学校協働本部を中心に、家庭・地域との連携協力を一層進める。 ② 幼保小・小中など校種間連携を推進すると共に、学校だよりや HP を活用して学校情報を適時に分かりやすく発信する。	(1) 取組目標（具体的方策） ① 読書活動「本のたからばこ」を充実させ、本に親しむ児童を育成する。読書週間を年間 3 回実施するとともに、文化講座を各学年実施する。	(1) 取組目標（具体的方策） ① 個に応じた指導を行い、一人一人の児童の基礎・基本の定着や自己肯定感を高める指導を行う。特別支援コーディネーターを中心に校内委員会で組織的に対応する。 ② 支援員による学習補助や放課後の補充学習、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境を設定する。
(2) 成果目標（数値目標） ① 学校関係者評価アンケートにおいて、学校と地域・PTA との連携に関する肯定的 90%を目指す。	(2) 成果目標（数値目標） ① 学校関係者評価アンケート・児童アンケートにおいて、読書活動に関する肯定的評価 90%を目指す。	(2) 成果目標（数値目標） ① 学校関係者評価アンケートにおいて、個別指導の充実に関する肯定的評価 90%を目指す。
人材育成・組織運営		
・教科担任制の導入に向けて交換授業を行い、各担任が学年全体を把握すると共に、若手教員の児童理解や学級経営力、授業力向上を図る。 ・月に一度の若手研修等、OJT を活用した組織的な教員の授業力・資質能力の向上を図る。 ・教師道場やリーダー研修など、個々のキャリアプランの実現に向けた研修を受けさせていく。		